

明治三陸津波の記録 3 ～風俗画報より～

1896（明治29）年6月15日午後7時32分に起こった明治三陸地震は三陸沿岸に大きな被害を与えた。

当時この津波を報じたのが1896（明治29）年7月25日発行の『風俗画報』である。「大海嘯被害録」と題し絵図でその被害のすさまじさを人々に伝えている。

リアス・アーク美術館の収蔵コレクションから現在の南三陸町に関する絵図を抜粋し紹介する。

※海嘯とは、河口に入る潮波の前面が垂直の高い壁状になり、碎けながら川上に進む現象。昭和初期までは、地震による津波も海嘯と呼ばれていた。



▲「歌津村の某婚礼を行ふ時海嘯に遇ふの図（伊里前）」

一家親類が集まり、嫁を迎え三々九度の真最中に津波が襲い、花婿ただ一人を残し花嫁を始め一家全員が亡くなった。助かった花婿は気が狂れてしまいゲラゲラと笑い続けるだけだった。臨時増刊風俗画報第百二十号掲載（リアス・アーク美術館収蔵）